

# 防災世界子ども会議

Natural Disaster Youth Summit NDYS

グローバル・シティズンシップを育む  
防災教育プロジェクトの構築と普及

- パンデミック時代の国際協働学習 -



2022.6.1

防災世界子ども会議実行委員会

# グローバル・シティズンシップを育む 防災教育プロジェクトの構築と普及

## パンデミック時代の国際協働学習

防災世界子ども会議実行委員会 実行委員長 納谷 淑恵  
プロジェクト創設者 岡本 和子

2021 年は、東日本大震災 10 年の節目の年であり、阪神淡路大震災から四半世紀を超えた 26 年目にあたる年であった。防災世界子ども会議は、子どもたちが、過去の災害を振り返り、将来起こる可能性のある災害に備えるとともに、現在猛威を振るっている新型コロナパンデミックという新しい災害にも立ち向かうプロジェクトである。世界の子どもたちが交流を通して、主体的に問題に取り組み、協働し、テクノロジーを駆使して成果をまとめ上げ、世界に向けて発信する。まさにグローバル・シティズンシップの形成を目標とする実践プロジェクトであると言える。本稿では、2021 年 8 月 26 日に行われた Zoom での成果発表会を中心に、その方法、成果、課題について紹介する。

SDGs 国際協働学習 防災教育ネットワーク デジタル化 グローバル・シティズンシップ

### 1. はじめに

新型コロナパンデミックは、世界の動きを一変させ、人々に行動変容を促した。新型コロナからの教訓として、デジタルテクノロジーが教育において重要な役割を担っていることを浮き彫りにした。

防災世界子ども会議(NDYS Natural Disaster Youth Summit)は、2004年にスタートした、オンラインと対面融合のハイブリッド型によるネットワークを通じた「国際協働学習」による持続可能な防災教育の促進を目的とする日本発のアイアンプロジェクトである。

2020年の成果発表会は、実際に新潟市に集まり成果発表を行う計画であった。しかし、感染拡大予防の観点から、実際に集まる会議をやめ、Zoomによる発表会をおこない成果を収めた。

2021年度は、2020年度の経験を基に3月、「自然災害と感染症の複合災害の危機をどう生き抜くか」をテーマに、防災のためのSDGsネットワークを通して、「防災世界子ども会議2021」の国際協働学習をオンラインで始めた。

2021年8月26日、世界同時緊急事態宣言下、学校の閉鎖や授業のオンライン化などで混乱の最中、成果発表として、オンラインによる「防災世界子ども会議2021in 四日市」を開催した。8の国・地域の子どもたちが参加し、国際協働学習の成果を発表し、宣言文を未来に向けて採択した。

参加可能な世界の小中高生が、主体的にすすめてきた防災学習の成果をZoomでオンライン発表することに決定し、パンデミック禍であっても国際協働学習の成果発表の場をもつことが

できた。

本稿では昨年8月26日に行った、成果発表会について報告するとともに、グローバル・シティズンシップの形成を目標とする国際協働学習の可能性について述べたい。

### 2. 防災世界子ども会議 ロードマップ

2005年1月、防災世界子ども会議は、神戸での阪神・淡路大震災10周年記念事業「第2回国連防災世界会議 パブリックフォーラム」開催を機に、ひょうごで生まれ育った子どもたちが、「自分たちの震災経験やそこから得た教訓を世界の子どもたちに伝えよう、未来へ生かそう」という目的で、兵庫発アイアンのグローバルプロジェクトとしてスタートした。

防災世界子ども会議は、デジタル・ツールを活用し「世界と学ぶ!」をスローガンに「国際協働学習のモデル」として、教育実践を積み重ねてきた。これまでの教育形態ではできなかった国境を越えた国際協働によるグローバルな視点での問題解決型学習の先行研究実践である。

### 3. 目的と方法

3-1 防災世界子ども会議が目指すものは、

#### ①地域を創生する 主体的な市民の育成

地球規模での防災意識を共有しながら、それぞれの国・地域にあった持続可能な社会づくり(防災文化の醸成)を目指して、SDGs達成を担う、次世代の市民を育成する。

#### ②グローバルなデジタル・シティズンの育成

国際協働によるプロジェクト学習の実践で、地球は一つの視点から、地球規模の課題解決を

担うなど、イノベティブなグローバル・デジタル・シティズンを育成することである。

### 3-2 成果発表会の方法と参加校

プロジェクト参加校は、成果発表会に向け、地域の災害安全マップやパワーポイントによる発表資料の作成を行っている。また、災害後の心の癒し、および各国・地域の文化紹介としての音楽発表の練習も同時に行っている。2021年度は、8の国・地域9グループの発表があった。

成果発表会参加グループは以下である。

1 日本（廣田元子、羽津っ子カウボーイ四日市、三重県）

Japan (Motoko Hirota, Hazukko Cowboy, Yokkaichi, Mie)

2 インドネシア（ダイアン・ノヴリニ、SMP イスラム アルアズハー 9 -ベカシ）

Indonesia (Dian Novrini, SMP Islam Al Azhar 9 - Bekasi)

3 ウクライナ（リュボブ・シャモバ、カーキフ特別学校 No. 75、カーキフ）

Ukraine (Lubov Shamova, Kharkiv Specialized School № 75, Kharkiv)

4 コロンビア（ロシオ・リヴァラス）

Colombia (Rocio Rivillas, 10mins)

5 マレーシア（コー・GH、セマンプセカンダリースクール、パハン）

Malaysia (Khor GH, Semambu Secondary School, Pahang)

6 インド（ジータ・ラジャン、セントマークス高校、ニューデリー）

India (Geeta Rajan, St. Mark's Sr. Sec. Public School, Meera Bagh, New Delhi)

7 インドネシア（サーラ・スアイブ、SMP イスラムアルアズハー 4 4校、ベカシ）

Indonesia (Saara Suaib, SMP Islam Al Azhar 44 - Bekasi)

8 日本（久保聡一郎、横浜市立幸ヶ谷小学校）

Japan (Soichi Kubo, Yokohama Municipal Kogaya Elementary School)

9 台湾（チ・チェン・ウ、シャンフア高校、台南）

Taiwan (Chi-Chen Wu, National Shanhua Senior High School, Tainan)

## 4. 活動内容

### 4-1 成果発表会概要

タイトル：防災世界子ども会議 2021in 四日市

日時：2021年8月26日（日）

テーマ：「自然災害と感染症の複合災害の危機をどう生き抜くか」

プログラム：

特別講演 各国グループ発表 総評

NDYS2021 宣言文採択

参加者：100名（見学者を含む）

発表者：8の国・地域9グループ

### 4-2 具体的な実施内容

成果発表会は、四日市市の学習グループ「羽津っ子カウボーイ」の生徒が発表会の総合司会の役割を担う予定であったが、当日機器のトラブルで思うように司会ができなかった。生徒は英語と日本語のシナリオを作成し準備をしていたので大変残念であったが、オンライン会議にトラブルはつきものであり、参加者の協力で発表会を進めることができた。

特別講演は台湾のアイアーン理事の Doris Wu 氏及び数名の先生方によって、台湾で行われた NDYS をテーマとしたユースキャンプの活動が紹介された。



写真1 台湾の発表の様子

会議のまとめは、アイアーンインドネシア代表でありユネスコインドネシアの代表でもあるハスナ・ガシム (Hasnah Gasim) 氏によって総評が行われた。



写真2 Zoom 参加者の様子



写真3 ウクライナの発表資料

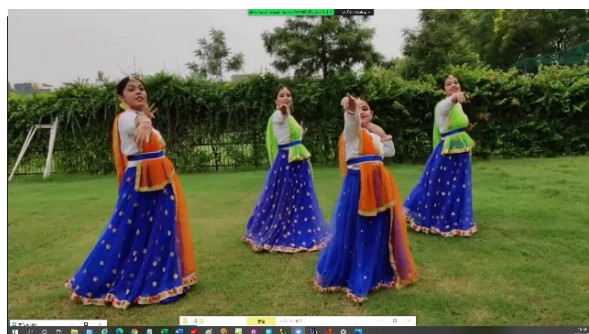


写真4 インドの生徒による文化紹介

## 5. 成果と課題

### ○成果1 地域の災害安全マップ

防災世界子ども会議「グローバル災害安全マップをみんなで作ろう！」プログラム  
地域の災害安全マップの発信

#### Safety map



写真5 マレーシアの高校の災害安全マップ

### ○成果2 NDYS2021 宣言文

NDYS では、毎年プロジェクトの締めとしてこれからなすべきことを集め、宣言文を発信している。2021年の宣言文は以下のとおりである。

Preparedness is the key to safety! (India)

Reach out to each other and let's brave the storm together! - (Malaysia)

Creativity never comes to end even in pandemic - (Indonesia)

"Sharing is caring"(Georgia)

Have each person's consciousness. (Japan)

Be Happy - You will be more productive in pandemic! (Indonesia)

If we battle together against the coronavirus

in the morning and at noon ,  
the victory will be very, very soon. (Ukraine)  
Let's collaborate with people all over the world. (Japan)  
Let's be the best, we can all right. (Colombia)  
We can change the world! (All together)

### ○成果3 NDYS2021 実践 e-レポート

参加の学校は、NDYS 実践報告の書式でレポート（英語記載の PDF）を提出。公式ページで公開

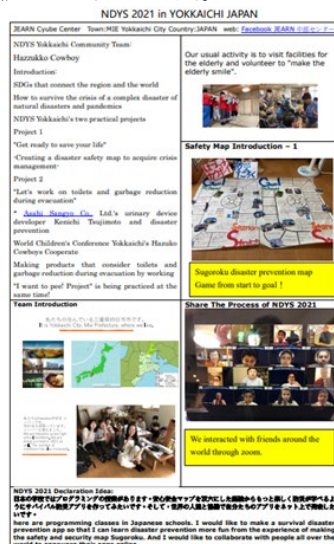


写真6 羽津っ子カウボーイの e-レポート

### ○課題

2021年は、G I G A スクール構想の実施に伴い、児童生徒への1人1台のタブレット端末の配布が進み、教室（ローカル）から世界（グローバル）につながり、オンラインで世界の状況に触れることができるようになった。子どもたちがSDGsに関わる取り組みや考えをデジタル・ツールをつかって世界へ発信可能となった。

2022年には、Society5.0への国家の戦略を下敷きとし、2004年から防災世界子ども会議が先行して取り組んだ「国際協働学習」の仕組みが、新たな学びの形の一つとなる可能性がある。

7月に、防災世界子ども会議は、コトリンピック実行委員会と協力し、新潟の会場と世界の学校をZoomでつなぐハイブリッド型の成果発表会を計画している。世界が戦争などで不安定化する今、オンラインで新潟の発表会場と世界の学校をつなぎ、「多様性」「市民性」を学び、互いが共存できる平和と安全を希求する場としたい。

参考資料：

<https://ndys.jearn.jp/>

<https://ndys.jearn.jp/2021/general-comment-j.html>

<https://ndys.jearn.jp/NDYS-road-map.html>